

先進会員感謝慰労の会を開催しました

総務委員会副委員長 清野 幾久子

9月25日(火)10時半より、「先進会員感謝慰労の会」が弁護士会館クレオで催された。対象である「先進会員」とは、当年度に満70歳以上を迎える当会会員である。この会は、長年にわたり弁護士の使命である人権擁護の諸活動、司法民主化の推進、弁護士自治の充実などに努められ、当会の礎を築かれた、大先輩である先進会員の功績に感謝する会である。本年度の先進会員は、9月25日時点で1,248名(うち女性会員は94名)であり、当会会員8,331名(うち女性会員は1,666名)の約15%にあたる。39回目の今回は、111名の先進会員(うち女性会員は10名)が元気に出席された。

感謝慰労の会では、はじめに、安井規雄会長から、当会が会員数8,300名を越える隆盛を誇るのは、長年会を支えられてきた先進会員のお力によるものであることにつき敬意と謝意が述べられ、先進会員の長寿が祈念された。また、本年度の活動の柱として、弁護士業務の拡大と同時に、会員数の半数を占めるようになってきた若手支援に力を入れて

いること、さらに人権、平和、弁護士自治の3つを守ることを、「チーム安井」として一丸となって推進していることが報告され、副会長、監事、常議員会正副議長が壇上に上がり、自己紹介した。

この後、東京都済生会中央病院院長である高木誠氏による講演、「脳卒中の予防と治療」が行われた。高木氏のご専門は脳神経内科であり、脳卒中＝手術＝脳神経外科の分野ということがいわば常識化している日本とは異なり、海外ではまず脳神経内科で診る、という予防の観点からの興味深い指摘がなされたうえ、脳卒中と脳溢血との違い、治療方法と予防についてお話された。最新の手術方法や、ここ数年の間に開発された最新薬の情報などの身近な健康問題にうなずき、あるいはドキッとされた先進会員もいらしたようであった。

その後隣室に席を移し、秋田徹常議員会議長の乾杯の発声で慰労の祝宴となり、それぞれの席のあちこちで旧交を温めている姿が見うけられ、慰労の会は、先進会員相互の賑やかな歓談のうちに過ぎていった。



～当日配布した葉から、先進会員の皆さまからの一言をご紹介します～
ご欠席された先進会員からも、多くの近況報告やメッセージが寄せられました

- この会で会える同期(9期)の仲間が年々減り寂しい限りです。(手塚正枝会員・9期)
- 懐かしい先生方にお会いできることを心から楽しみにしています。私はもう86歳の高齢となり、兵役の経験はないものの、千葉中学に入学した昭和20年、数度にわたって米軍B29の空襲による爆弾や焼夷弾・焼夷爆弾による戦災、米軍戦闘機の機銃掃射などによる強烈な被害を体験し、死と向かい合うような毎日を送った最後の世代かと思えます。(高氏侑会員・17期)
- 近年の多くの諸法の改正や社会のIT化に遅れをとらないように精進し、せめて「一隅を照らす」ぐらいの気概は持って、今しばらく仕事を続けようと思えます。(山崎克之会員・26期)
- 第19回シヨパン国際ピアノコンクール in Asia 東京地区大会 シヨパニストS部門で、シヨパンのワルツ作品69の2を演奏し入賞しました。(伊佐山芳郎会員・28期)
- 紛議調停委員を永年勤めています(委員長歴もあります)。弁護士費用のトラブルが多く、これを如何に未然に防ぐかが大事になってきていると実感しております。契約書を作成するだけでなく、依頼者の満足度をよく見極めることが大事だと思います。(勝野義孝会員・31期)